



白石龍行

三

15  
634  
3上



門 1 曾 4 5  
號 6 3 4  
裝 3 止

古畫の序

故民部少輔源后利直

家説  
土屋

家藏古畫相傳ハ八幡殿の

像トシテ其弱冠の比は初見ノキ其後三年其

戦の圖なり其時其家祖臣等より其時其後三年其

似と云ふ事あり其時其家祖臣等より其時其後三年其

許と云ふ事あり其時其家祖臣等より其時其後三年其

可と云ふ事あり其時其家祖臣等より其時其後三年其

たり其時其家祖臣等より其時其後三年其

豪意不羈不見その作の畫工の及ぬをよその事あり其

守信探幽女信永貞等々栗田口法眼の畫なることいふ事あり其



果つては新はりの草世にありては、その色は、一、彩色の  
みか、赤痕を見せ、たゞ、其の紋、三つ、り、ね、と、赤、の  
り、て、色、を、染、け、く、り、之、の、り、を、染、せ、り、と、い、ふ、に、大、く、  
制、落、せ、り、す、れ、ば、あ、る、を、と、も、の、り、を、と、も、辨、は、る、  
その、り、は、益、エ、り、と、ま、き、り、り、の、り、め、く、い、見、ら、り、  
小、さ、せ、り、これ、も、西、の、色、を、り、せ、り、の、り、を、り、と、ま、  
た、く、腫、り、腫、子、の、り、け、前、の、り、を、り、書、本、ハ、今、す、り、  
あ、る、腫、子、の、り、を、り、と、ま、き、り、り、改、む、り、き、か、り、り、  
を、り、と、ま、き、り、り、と、ま、き、り、り、と、ま、き、り、り、と、ま、  
く、り、を、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

正徳二年十月十八日

筑後守源君美識

右得于白石翁嫡孫源邦孝写之朱傍

伊勢平貞文書

白子先生の遺稿を讀むに於て其の筆蹟を考へて其の平生の事蹟を知るに益あり

白子先生の遺稿を讀むに於て其の筆蹟を考へて其の平生の事蹟を知るに益あり

白子先生の遺稿を讀むに於て其の筆蹟を考へて其の平生の事蹟を知るに益あり

白子先生の遺稿を讀むに於て其の筆蹟を考へて其の平生の事蹟を知るに益あり

白子先生の遺稿を讀むに於て其の筆蹟を考へて其の平生の事蹟を知るに益あり

附于白石先生所述義家畫像之後

貞丈云義家の明徳の上の紅の中は白子の入て

言さるゝとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を

用ひてなりとあり一紙に原の氏あり紅の巻を



為之塗以鳥漆畫以胡粉其所畫即世之所謂鞞  
繪也其說頗與式合嗣後安殷西歸而請主庫者  
摸社中之物以贈云今世其工心無莫知所以造  
之法者故刻木模形其細大漆蓋一如之嗟其苦  
獨存而其工既毛不可得其製也况於器工俱亡  
乎孔子曰觚不能觚哉也蓋如此之謂與雖然  
蔡邕有言曰尚有典刑吾於此者亦云  
于時丁酉春三月廿九日白石美畫于深川僑居  
寫疑之式吳亮史載應神帝臂上肉起如鞞萬葉集古歌亦  
有鞞音之語蓋其形制如毬而有柄觸弦則鳴

邑力

者世既失其制而陽明大相國故公亦謂之  
附于鞞記後

甘雨亭本  
我俗所稱鞞繪也傳以為水渦之象亦因借用也  
字非也虞書藻火之大周禮之畫火以圖及宣和  
傳古圖所圖古器飾以圈文者皆是我所謂鞞繪  
也鞞者古射著臂以避弦之器源順以謂鞞倍字  
當作鞞今檢諸書竝無鞞字蓋我俗所製从革从  
丙之字俗讀為火之兒語与火之繪同其器用革  
為之以火繪之義取于此火亦轉言鞞者其所畫  
之象如鞞也出雲州所隸畫墨郡古稱繪鞞上古

貞文按言鞠者之  
鞞字指畫之各也  
後鞞之字下脫繪字

神人相其地勢似畫鞞之象故名之古之畫飾用  
火者最多亦指畫之於今所存者唯有樂鼓舞臺  
及屋瓦之飾而已後人諱災故稱之鞞繪亦附以  
水渦之象而其後亡矣下酉三月書  
此處文字極其模糊，難以辨認，似有關於神事之記載。

右鞞記得于白石翁之嫡孫源邦孝為

明和六年己丑冬十一月二十四日訓點句讀  
及朱旁注

平貞丈寫

右の記ふいし泉州の人を送りしといふ鞞の  
かくは新井源邦孝の請ひを以てし其の記す  
志ふ所なりといす明和六年伊勢の遷宮地  
ありしに久志本常一のおもむきてかの神事あり

神寶をにりてしりて鞆の事なるは  
洞のしりての神寶も木とてしりて銀  
のしりてとてしりて物やのさくはるしりて華  
のしりてやうとてしりて人かたにさるしりて木とてしりて  
用とてしりてしりて

神寶のしりてしりて木とてしりてしりて  
常一のしりてしりてしりてしりてしりて  
麻のしりてしりてしりてしりてしりてしりて

貞丈記

附帶

先師遺像識

浪華森氏藏

明嘉靖壬子歲秋九月廿二日得先師遺像於<sup>本</sup>驛  
有執政者乘而過焉馬嘶伏策亦弗進索諸槁下得  
石刻唐吳道子筆也既而視愈真其容莊而倍其視  
端而遠而魯論所謂溫而厲威而不猛恭而安者與  
抑亦所謂溫良恭儉盛德光輝之接於人者與戲  
以天從之德百世下猶能使一物之微尚亦有知弗  
敢過越矧伊人率於教動靜語默知其美而固敢  
過越其心息矣弗能神交於一堂乎哉遂命立石於  
學官庶吾後之佩服明教者幸瞻於斯因以感發而

與起而為之風化者矣故為之識云癸丑二月望日  
知伊陽縣事安肅王學習立石  
正鄧文才重立石

宣聖遺像石刻幀背記

孔夫子石刻像蓋唐吳道子筆其識云明嘉靖間有  
執政者騎過伊陽城驛梁馬嘶伏策亦弗進索諸樞  
下得石刻遺像云於予夫子道足以濟天下言足以  
徑百世而當其生也非孫毀之子西間之及拔樹絕  
糧是以車徹周于諸侯未嘗終三年淹也當時且猶  
然奈何共矐威靈于遺像于百世之下蓋頭晦通塞

命也時也其於物也抑亦有數而成毀出沒弗可使  
也弗可尼也但在其所遇耳世人遽以為靈為怪也  
於是子巫覡僧祝之流假托妖祥皇張其道甚者偽  
造百計媚惑庸俗以為奇貨若吾夫子則尊豈待此  
哉而其尊亦自有焉吾友粉景文得此幅平安布中  
尊崇珍襲至矣不知為其有異靈歟抑將因異靈以  
祈福歟雖然夫子言曰敬鬼神而遠之又曰非其鬼  
而祭之諂也然則土塑繪像將享用其靈吾望粉氏  
瞻於斯心嚮往之以教化家室果然則尊崇豈可不  
盡心耶寶曆丁丑初秋三日北海片猷謹識

清源國

本居光永藏書

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

参考

不用

見分

聖像考

先聖を祭るに像を設る事古始を叙ふに西をさいくせし  
像を祭る事漢に始り既を叙するに孔子文廟の祭に  
る画像ハ是聖像に最古を叙すは通を体とす尚を石室に  
中小を叙すは漢人文廟ハ聖像晋に顧暄之が像を叙すは唐の吳  
道士摩詰二人古唐の代の人滄を叙すは世を叙すは物に在り  
を中顧暄之吳道士等に像を叙すは今を叙すは關聖の孔廟に傳  
るなるべし關聖志聖像を設るに此より何れの像よりや始  
りぬ古の像より此の像より聖像と云ふハ非す本を彫  
刻事佛教中國に入より始るに中明の在濬ハ云ふなり即  
山丘西方に俗に佛に像を事ふる事何れハ先聖を祭るに  
像を用ふる事古俗に倣り且の義より何るべきと凡ハ

吾人此形を西きよし金よと請ふせしるハ佛教未だ中  
不ハふざりし休よりも彼一傳り周の成王此時周公且  
の涉像也明堂不西き後ハ候万年也初して吾原保の涉  
也忘れ後ふましきる也亦しぬひ 王應麟 又孔子魯北大廟  
不入之金人を見ぬひ是古くの言也怪し人之と宣ひ 家語  
或王句踐范蠡又湖不淳く後黄金也以之吾像也請ふ  
て是不つうぬひし杯 吳郡春秋 云車ハ皆是周の休也車  
不之傳り也是亦ハ吾像也度て多し多くの事あり也ハ見  
つ漢の丁蘭が母此像也亦不刻て車へしるハ正史吾  
像也祭りし石と見たり云休ハ仏法以來之中國不來  
りし不ハ何ふに又佛像と云之の中不し来りしるハ後漢  
の休不始れる也云傳れど程史より先漢武帝此時休屠

王の天也祭れる金人を得給ひしと彼一し是則佛像也中  
不不ハ一拾之吾休ハ未だ佛の教未だ云る中不不彼一  
ざりしハ天也祭れる石の令人とハ云る之と中せし  
人も傳り 聊那作醉編等 云りハあれと仏像不事するの  
中不不ハましるハ実ハ後漢の休不始れる不ハ何ふに  
晋宋の石不もその盛ハ成とり仏國の人ハ元より西方  
の戎狄也此ハ吾形也陋くして中不の人吾像也見て教  
生せし晋の戴顓と云し人吾意の巧也吾て多くの仏像也  
造り出せり是也造る始末身ハ帳の中不隠れ居て云つく  
れり像也来り見る人のよしと云と云初也彼て吾り不不  
傳て及ぬ傳りし石不十年が程也經て吾巧也相しきか  
くてそ今の世不傳ふ處の佛菩薩亦の像ハ端座の相也

成るるなり

尚書故実不出。今亦玉小来る紅夷の人ハ彼仏國の  
地方不道き人之言髪挙りたけ若く鼻言眼志さぬ  
意也。又玉仙玉の人北形也思ひやるべし。又嗟嘆の釈  
迦の像之梁の武帝の作ハ西方より来れる梅檀像也  
了つせう之鼻言く眼志さぬくして尋常の像不似  
此是木北夷也思ふ不尚書故実の説疑ふ。唐の次又  
今も西蕃の地より来れる佛像ハ其形阿やし。玉中書  
後西遊よ見也

彼是也保也考す小先聖也衆る小聖像也用る事ハ必しも  
仏教中玉一入しより始れりとも思ふ。此其長彼文森の画  
像也衆る率北夷く漢の代よりや始りぬ。人正し。史不

見く。新ハ唐玄宗開元八年 辛卯元正養老の制よ云也  
唐の代より

作不既不然有りし中中せし人も阿れば 李元瑾玄宗の  
時也。以て言始めとも定め申す。宋の程頤 別伊川像

也。用る事然るへく。一毛一髪も背さる所阿る時ハ既  
又吾人ハ阿らばと云朱喜の説ハ 別晦菴 先聖の像也

る事古不阿らばと見へ元の排漢ハ小史也。見る不泥人 綱

人也。道れる者ハ一門殊せし。く。と泥人元ハ聖人也。記  
るの法不非はと云り。孔叢子也。見る不亦先人ハ鬚眉也

ト。まされと有りし。か。と時の君是也。以て言教也。換し。後  
也。と子思の宣ひし。と見へし。不闕里小藏られし。不皆漢晋

此作の衣冠の制不して。中吳道子ハ画きし。不ハ鬚眉也。

聖不洩すまはさふハ程順の云くぬく不古への妙画の画  
さし不不まも皆是聖人の肖像は何れに來して後世の  
拙工の或ハ西を或を刻める不いらでり聖人の肖像也  
了流しるるるの竹ふ画きたとハ一毛一髪の遠くなく  
うりし刻之なせりとも既古の礼も 欠字△進を太宗  
の時より小京也帝教とハ昭されしや其後英宗の天順年  
申不

太祖と云ふ代不何より後ふ之を初後園融長祿寛正  
の江武家ハ高光院帝教此涉時

蕪別の学廬の像年久しく破れしうハ或人は是也修飾ある  
べしと申す其太守林鶴と云し人の曰我太祖乃涉時大學  
此塑像也ハ本を以て易むひきたとハ此像也ふれ也

從是也毀ふべし幸不破れしうハ易む不本を以て世人  
幸何の不可り何るべきと云しうハ聖像也そこをひ棄ふ  
せんす之何る中聖をて重る中せし不是古の之幸て聖賢  
あるべき孔子ハ仙教のまご中國不のささし前不生れ  
ぬひを以て像と云ふもの也知し百るべきとて 丘濬の祝  
此祝ふよる 聖像ハ申不及バ從從禮の既賢也其考之未を  
不ふし易られしり憲宗の成化十七年 太祖よりハ休不尚  
門文昭十二年武家ハ 國子監祝瀾と云し人本を以て  
義尚將軍の代不尚る 聖像不易へき由也奏せしるを幸不を呈て罪蒙り雲南不  
流さるる帝の涉子孝宗の位不崩せ後ひし 初 成化二十  
二年あり 永祿後出涉門長享二年 學士丘濬が献りし大學衍  
義補の中より先聖を祭らるべき礼也後中せしかど其世

小書卷用ひ後王は 於後九年同日小丘瀆 世宗北嘉靖九年  
大雅より十二作有り 亦教ハ後宗長院 張璠也中せし學士  
享福之象武家ハ義博張璠の作有り  
の上疏し先聖を祭るべき礼の在るを陳し中せしわバ  
礼部の官小命せし 此翰林の諸臣を會て是を陳せしめ後  
ふは編修官徐楷と云しが唯阿りし多く小こを強るべし  
也中せしよりて罷せしめて亦小おさるか令て帝自ら  
孔子を祭るべき礼を悉く改め正させ給ひ群臣小より  
ちぬひしりみなく然るべき由を奏し中れバ先聖を初  
て孔門に諸賢を後世の世より從祀せしむし先儒を祭  
らるゝ 礼を改め正しぬひ悉くを像を拵え神を祀用て祭  
らるゝ 但此時用ひし礼神を 同十三年小帝自ら大學  
らるゝ 古の式ハ何ハ也 小帝自らて先聖を祭り給ひさせれば 世宗

考

也中書も是ホの在るに千古小卓新し給ひしよりれは之  
也中書も傳子宗濂より此方作りの學士大夫の奏陳せし  
先聖を祭るべき礼を且も其子孫小長したや亦云か  
たは先聖を祭るべき礼を其の始終のみを愛小忘る事有りぬ  
教の古より大學寮の中不及は及又幾七道此内宮に國學  
を建て先聖を祭る此學校を教へ祭らせ給ひし世の末  
さばは成りて傳て其事たれて亦不復る事有る日ざる  
事其臣年以陳書の由也海内小詳小考し竊小誤せし詳在  
か亦ありしに也 ども今實小是等の事也忘るさんるハ  
元より亦後にもあふに其位也 論人車唯聖門に罷を獲ふ  
のまは有る處りかざれば敢て言ふこと亦不復る事有る日ざる

大雅大書の傳りしは 世宗の傳りしは



る記されど伴紫冊等也然りまひかまると小歌謡切用  
ひしりも後代の俗不あ来しも又知へりか原されハ  
先承承也以く中朝の承の始とハ中承之能知れる人  
小同べ多事不也

庭史と里朝倉其約不むるまで二十餘曲ハ  
宮樂曲の名之  
宮是神代の遺風よして別種也然るも  
時不用ひられし  
樂よて阿らるり至余の樂曲被是と國史不見し一亦互と  
いふども至声容此曲を後世不傳れりと古史云は

殊殊八條の藤回藤指藤杯と云至玉史不見えあり  
所謂信子天風俗の類不むてハ宮是承承玉歌の樂よて傳  
承承ハ周の代の頌の如く信子天風俗の周代の十又  
玉の風の如くし也

三十四代の事推古天皇の天が下志海しめ至二十年百濟  
の人味摩之承承不來此り被昔矣玉不乃く至玉の被承  
也字が乃ち由美しれハ少年也集て是也乃わすめらる  
是吳邦の樂也承國不傳れり事也始也中承べき  
此年隨化燭事大業八年不阿これり○是より先の代  
不新承より樂承しなむり承阿れど承玉の人それ  
也傳ししとハ見しに  
至後曰十二代文武天皇此降代不初して撰れし令也見る  
小雜樂寮の牽る新文武雅曲正條雅樂等あり  
于承承也文と云于承阿る也承と云雅曲三條の介  
也雜樂と云也承解不ハ見しとり  
至局不りも也る歌原歌人條原條生笛生笛工等の如きハ

中朝の樂教を孝り唐樂之麗百海乐新羅乐彼乐亦も吾を  
原と云生と有り

彼亦とハ吳樂也リ小中琴解とハ見えたり

是亦ハ吳吳邦の樂教を嘗ら之あれど中朝吳邦の乐或ハ  
燕管小用ひ或ハ房中不用ひらるるも程園休大樂正の尚  
るもの如きもく阿多く多新習唐乐の如きもたつ小唐作  
の乐の之ハ北也小奇陳隨等の樂及び唐休小新習法教  
胡教等の曲又それら此曲調小倣て亦然もして能れり不  
も信りありされハ新習唐乐も嘗て後世の俗乐も之也ト  
ゆふ小胡教夷教等の樂也も之也此ハ彼三休の古乐もハ  
北亦中朝伶官此況小振許三帝と云ハ周詩五牧野のる小  
始されり也中絶さくハいり也る大武の乐も也されど今

其声容也觀る小かめ武の云成の美割と也見え也

又此も小ハ柔が思見たきふも北也とりく其言葉也傳

州の十者此況と遠不有るハ之以て辨せんも不有のる之

此所欠文張字も見え元次

付

奇び後小前の長もて士君小買緒也も又卷用ひらる

も、も如く小阿かされハ形ハ終も来れり之

中朝の古文此の如く伶官の郭衛府史生亦の官亦有也

も、ハ友氏小戚の控幣目も小ましく門務也のも其も世と

あり其人也以て奴隸の如く小思ひ且ハ時君の考も小声

樂也得もせ後ひし体より始れり是初裏世の弊政もて古

の割も之阿か

漢對分二條

東旋より少くハ和備の中よりして風俗の教の一ツ之をその  
始を駿河必有戸部有戸濱小和女降て舞撫ふ事有りし不  
能此の中中傳ふ事有り

安閑帝の涉時の事之及古民の人を曲を傳し杯や宛  
されハ又是を駿河舞とまやしし是終因法際り〇了と濱小  
天の所衣者しきてふりしむ神也りふの左ふりこと濱し  
巨を事也濱し之此舞也ハ約章又ハ大系臨北系種園臨時  
の祭の時奏せしむる〇神の作れハ坂の里とりふより  
そ是が千年ハかぞく左しむると云歌ハ天延三年種園臨  
時の祭の時不石れし の官 **此新久文之**

又樂官也伶官と云ふハ古美帝の樂原小伶備と云者有り  
世之樂原と云ふハ故小後世多くハ樂官也号して伶備と

云之と云ふたり の官 **此新久文之**

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

又備優俳偶の類也も伶官と云ふハ是木の歌樂官の属も  
殊不辨と云人たれど

一休小之樂官の長ハ若天子の陪地也たまけ中みせ  
胃子必也教事奉つりさど此の所在れば主任最重く  
後王又先王の制よりして官也設事これハ多々礼官  
の属也又ハありし之それ小隸せし樂原生ものめきる若  
是を波慶也もて食也けみ其の奉の降付又協律都廩  
の官也亦多々亦官樂官たり又分後の作も或ハ  
草之唐の作不及比隨の官制よりして大率の属官小大樂  
令一人從 八品下 樂正 八人從 九品下 等比官也亦多々凡文武の二  
舞師 一百四十人 有りき云京開元の比も左右教坊也亦  
て俳優雜劇也亦多々めらる是より俳優雜劇の類大率の官  
小之隸せば中官也亦多々教坊使也ハ亦さる

常小隸也亦多々亦多々又教坊也亦使并小副使判官一  
小判人也亦多々亦多々つりさど亦多々めらる  
本朝の令也按る小雅樂寮の属官小雜曲正係雜樂等の所  
也生と有りさるハ本朝の制ハ雅曲正係の介雜樂也亦雅  
樂寮亦隸せられたりあり

又按る小本朝の制雅樂寮ハ治教省ハ属也亦多々亦多々  
名也礼教也亦多々大率也亦云即礼官之雅樂寮の唐名也  
大樂署といハ唐の官制也且ハ雅樂院ハ從  
又位下礼官也此ハ唐の大樂令ハ亦品秩也且ハ  
一たり又

又樂工也伶官也亦伶人也亦又ハ伶侘也亦多々ハ説文也  
按る小伶也ハ舞之伶人ハ舞臣之  
人君もてあそ 婁湯の大  
比也一後小

漢武王紀大武周の句は是自ら製し後所の樂之と云  
此バ又文休ハ其事也掌此ハ人忠く賢聖補佐の長也何  
らさるハ亦ハ樂變小令して樂掌りしめ習子也教しめら  
れしと見しハ亦十六相の言一人もて有りし之を後周  
化世もて孔官の屬ハ大司樂の官也中右史二人也也て  
樂官の長也ハ成均の法也掌り

成均ハ又帝の樂の名之而莫帝等の又帝の樂也この  
官也次

國の學政也として玉の子牙也令也樂原として下右史の官也  
人互是ハ玉學化政也掌て玉子也教也其奈大司小司大司  
小司若小樂工等多く孔官有りて皆大司樂也隸セリ

周の世もて樂官の長を任せて小司樂と云

況も是友ハ虞漢化時ハ伯夷孔也掌此變樂也掌り  
禮樂の官也並て教也掌此り周もてハ樂官の長也  
官も屬して其教也掌りしハ友之是ハ後代の官制也  
周の如く孔官の屬の樂官也並りハ亦學官國子の  
教也掌るると云るなりハ亦其任任くありと

秦漢より此くハ奉常孔屬官也奉常ハ昴古の孔官之後の代  
大樂令丞の官有又少府の屬官ハ樂府令丞有り孝武も又

史く小書也とこ中其也也此

謹對才三條

右の三條の時郊廟朝廷亦月以玉以し所の樂ハ今も何  
る二百篇の雜頌の如き其樂歌して何る有り二南の如き

ハ即房中の樂歌と申す之秦の体不<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>て先王の礼樂也  
其不<sub>レ</sub>破<sub>レ</sub>り接<sub>レ</sub>ふれしハ其の体化<sub>レ</sub>りてハ稱<sub>レ</sub>たり不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>ハ其  
其後漢の体不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て割<sub>レ</sub>せられし宗廟の樂の如<sub>レ</sub>き先王の雅  
頌不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>てされども其体所謂雅樂とて阿<sub>レ</sub>る者房中の  
樂不<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>てハ漢家其声阿<sub>レ</sub>りて

其體楚の聲也其後ハ由漢書不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>也

是より此<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>魏晉南北朝唐宋元明不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て一<sub>レ</sub>体の礼樂也  
割<sub>レ</sub>して郊廟朝廷不<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>ひられし不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>漢家の例此<sub>レ</sub>の如<sub>レ</sub>き  
其体所謂雅樂之俗樂也其<sub>レ</sub>ハ此<sub>レ</sub>と云<sub>レ</sub>て未<sub>レ</sub>だ<sub>レ</sub>也

謹對身に條

古<sub>レ</sub>の如<sub>レ</sub>き此<sub>レ</sub>世<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>礼樂也<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>て世<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>治<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>り  
ハ後世の如<sub>レ</sub>き礼樂刑政<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>ハ何

ら<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>され<sub>レ</sub>ハ禮と云<sub>レ</sub>ハ禮と云<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>ハ先王の帝王の割  
り<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て所謂<sub>レ</sub>黃帝の咸池顓頊の六章帝  
響の<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>莫<sub>レ</sub>竟<sub>レ</sub>の大<sub>レ</sub>章<sub>レ</sub>舞<sub>レ</sub>の九<sub>レ</sub>詔<sub>レ</sub>禹<sub>レ</sub>の大<sub>レ</sub>舞<sub>レ</sub>飲<sub>レ</sub>酒<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>ひられ  
し鹿<sub>レ</sub>鳴<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>社<sub>レ</sub>と云<sub>レ</sub>十二<sub>レ</sub>篇<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>蹠<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>接<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>た  
れ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>實<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>樂<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>稱<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>宋<sub>レ</sub>の  
身<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>王<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>禮<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>君<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>り  
れ<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>王<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>世<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>既<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>聲<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>仍<sub>レ</sub>れ  
本<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>今日<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>始<sub>レ</sub>漢<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>体<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>王<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>礼  
樂<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>治<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>られ  
ん<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>王<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>体<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>べ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>史<sub>レ</sub>も  
叙<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>が<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>陋<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>体<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>割<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>われ<sub>レ</sub>り  
る<sub>レ</sub>誠<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>涉<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>ち<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>阿<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>孝<sub>レ</sub>文<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>篤<sub>レ</sub>恭<sub>レ</sub>も

て学唐め給ひし孝武の英明して傳を崇め給ひし賈誼が  
才阿る仲舒が賢あるを君も君臣も後休しハ有が<sup>三</sup>漢  
なる由中傳しハ有る波迄王は孔樂尚世も傳れる休之彼  
皆寸賢の人々を君も君も傳し中たり人  
事也誠も所謂千載の一遇之りも不<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>漢つひし初れは  
世の治也して是王の送風傳響也也初めさしめられ  
多<sup>レ</sup>永世も送れり憾之りさかハ異教の是王の樂ハ春秋  
の比るひし既も初れ秦天下也保せし不及也<sup>レ</sup>忠くも廢れ  
ぬされしは西漢の比るひまでハ其傳響ハ有し<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>晋も  
至て漢家の孔樂也傳りし時も亦秦の樂人も有り<sup>レ</sup>宗  
廟の樂也刻しりる孝文帝の時時も亦<sup>レ</sup>賈誼と云し<sup>レ</sup>が秦  
しり<sup>レ</sup>が漢與も今も二十餘年也<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>刻也也定め孔樂也

與させ給ひしとされし其休乃大臣波が後也中せし人有  
し<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>也漢つひし不<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>後又此事也董仲舒と云し<sup>レ</sup>が  
孝武帝も亦<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>とり<sup>レ</sup>れ也此君も亦<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>白奴  
也休中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>孔文のりも<sup>レ</sup>涉<sup>レ</sup>意也<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>服<sup>レ</sup>來<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>さ  
れ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>只<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>孫<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>漢<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>孔<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>之  
漢志也見し<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>高<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>論<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>給<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>王<sup>レ</sup>封<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>休<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>ひ  
し<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>歌<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>宣<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>孝<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>孝<sup>レ</sup>武<sup>レ</sup>等<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>廟<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>養<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>不  
の<sup>レ</sup>文<sup>レ</sup>始<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>詔<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>初<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>周<sup>レ</sup>舞<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>漢<sup>レ</sup>與  
り<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>君<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>制<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>雅<sup>レ</sup>秉<sup>レ</sup>聲<sup>レ</sup>律<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>世<sup>レ</sup>も  
大<sup>レ</sup>祖<sup>レ</sup>官<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>秦<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>先<sup>レ</sup>王<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>孔<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>破  
り<sup>レ</sup>廢<sup>レ</sup>られ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>とい<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>漢<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>休<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>初<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>尚<sup>レ</sup>先<sup>レ</sup>王<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>休<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>去<sup>レ</sup>り  
遠<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>初<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>孔<sup>レ</sup>樂<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>由<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>尚<sup>レ</sup>世<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>涉<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>所

阿リ一ノ漢院不亡ビ後漢の中身不及五ノ尚周雅鹿鳴の  
曰侍と云云ハ世不終リ傳ハれる也晋ノ荀勗と云ガ  
乐改メ他レニ或ク思ク是ヲてね 是ホノ子續文新 通考ト云也 至後唐  
ノ世不亦ても東遊ノ歌とて見つたらさ下ハ坊舞曲ハ毎  
クハ終ヒ終ル不引ハられ其樂歌ハ水多ク時不終ヒ是也  
他ノ一めらるるも有らるなり是未ハ家次才云奉根源  
等ノ書不見一不不リさ下ハ世不終ヒ法院ハ水多ク思  
ク信する不多ク否とヤ以不ハ多

古謹對

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

白石遺稿

人名の考

筑後守後五位下新井君美著

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

或ハ文字の例と云フ  
大夏命等ノ名類ナリ後代ニ入麻源ニ根ノ新又新  
或ハ文字の音と訓と云フて傳せ也  
古酒はたのむといふ言ハ二言訓ハ酒の代ハ名東の長身ナリ  
其人ノ言の歌也













賊といひおまわりのおひるま

史のしりしりたる所をたのむるにさしてさしてはなすべし

史のしりしりたる所をたのむるにさしてさしてはなすべし

大東の系後園海府の系そのの何れをさしてさしてはなすべし  
いふ所の天也之系後園海府の系そのの何れをさしてさしてはなすべし  
いふ所の天也之系後園海府の系そのの何れをさしてさしてはなすべし

那須國造碑釋文

源君美

永昌元年 朱鳥四年也朱四二字上頭一點皆碑面剝落之故耳據史持統三年歲次己丑實朱鳥四年也明年庚寅正月朔持統即位先是無改前朝之號蓋以其模也  
飛鳥淨御原大宮 據史持統尊號稱曰藤原大宮而飛鳥淨御原大宮亦無改前朝之號也

那須國造 那須國造也按國造本紀景行之世置那須國造焉  
追大壹 據史天武十四年正月更改置位之號其諸臣之位正位勤位務位追位進位有大廣各四階凡二十四階

那須直 那須直也姓氏錄云直者諸君也古有直姓者皆是也天武十三年十月更改諸氏旗姓以為八等曰真人曰朝臣曰宿稱曰忌寸曰道師曰臣曰連曰稻置而國造真姓者無改本姓也

草提 草提人名也草猶天武紀事那公高見之章也提猶欽明紀膳臣已提使之提  
評督 評督未詳按史崇神十八年以皇子豐城命今治東國景行五十九年二月拜豐城之子彥狹島王為東山道十五國都督蓋襲封也王將就國中路病薨百姓悲之不來竊盜其屍葬之上毛野國明年八月乃命王也子御詣別王專領東國世子克繼前業以善政聞蝦夷率服尺獻其地邊廬人安於安子孫猶在東國去考姓氏錄豐城之後復襲舊封拜都督後凡二十八姓皆出自上毛野下毛野亦國焉那須直蓋是豐城之後復襲舊封拜都督之命乎然則評督之評當是都字都督曰讀与大宰同又按欽明紀地名背評讀云邊郡蓋古訓也許督猶言郡宰也郡評字似史碑皆訛亦未可知也

歲次庚子年 文武四年也  
辰節弥故 辰節犹言辰時也弥故物故也蓋言某年某月某日某時卒  
意斯麻呂 意斯人名古者以意斯名頗多麻呂古男子通稱蓋某僚屬也





銘德也

殞公 殞亡也猶言亡君也

廣氏尊胤 廣氏蓋讀廣來津公也姓氏錄曰豐城余三世孫亦麻里依居地稱廣

來津公

一世之中重被戴照一命之期連見魁蓋謂其於國人有再造之功也

嫡子 嬌子也

不改其諱 不改其道也所謂三年無改於父之道也

銘夏克心 維藟菟心也銘或雖字

澄神照軌 凝神照軌也

六月童子 竟童子也六或亦字

意育助坤 意育助坤意憶古字

作從之夫 作從之夫也

合害喻字 合言俞也猶言俞曰俞也

无根更國 無根更固也

右那須國造得貞高中故常山源公摸而傳之乃建碑亭以置守尸碑已埋沒九百九十餘年

而後見子世矣嗟夫物之顯晦國各有時邪美今所得一本所謂傳模補是非其真者眼未見石本也其跋曰元年上二字不甚分明乃攢印見之永昌二字也然亦非其真者眼

鳥淨見源夫武朝之天武有朱鳥號永昌字形稍似朱鳥想是歲月之文字體訛鍊之因

推為朱鳥歸復考之朱鳥元年歲在丙戌而此曰己丑而當持統三年此時本邦年號闕

故假用異減年號于美竊疑以謂維我東方建國呂宋未始有稱藩異邦奉其正朔者也

偽周之號亦何以假為若其果然則文武四年只用甲子何也以余考之或以為永昌元年者

即是朱鳥四年也持統稱制無改前朝之號蓋以其據也據史持統四年庚寅正月朔始即

天位亦足以徵矣歷代繇連久多刊缺不可尺解俾其四字僅存三畫而右勇轉折處隱

若挑勾勢上頭一點乃是剝落之跡遂使觀都以為元字耳越人以為魁楚人以亂孰知瀛

飛冥兮哉美嘗聞之孔子曰惟器与名不可以假人魯仲連齊國一男子欲蹈海而死義不

帝秦之故也堂今天朝豈復有假以偽周之號哉我字淺陋性且不好幟不足人物雖然豈

關係則重矣大矣敢不得不辨

享保辛丑秋七月二十日源君美書

下毛國那須郡湯津上國造碑

永昌元年己丑四月飛鳥淨御原大宮那須國造

追大壹那須直提許督被賜歲次庚子年正月

二壬子日辰節弥故意斯麻呂等立碑銘德云尔

仰惟殞公廣氏尊胤國家棟樑一世之中重被戴  
照一命之期連見再甦碎骨視體豈報前思是以  
曾子之家無有嬌子仲丘之門無有罵考行之考  
子不改其語銘夏竟心澄神照軌六月童子意香  
助坤作徒之大台言喻字故無翼長飛无根更國

那須國造碑釋文終

水戸義公所納塋中鏡背圖

那須國造墓有碑不勒名  
啓墓索無誌仍舊復修營  
嗚呼斯何人有靈即無靈

死者若有知盍鑒我哀誠

元祿辛未久某月某日

原光國識



二枚

白石遺稿

樂對

夏カハリ

筆後遺述五卷下新井君美著



12

675 (46)

謹對

謹瑤也... 存銘の樂曲... 二部有る... 所謂

我... 邦の樂あり... 社朝廷聘親

燕... 用い... 於用代の... 禮子

中... 我... 始とヤソ...

伊... 尊... 伊國... 有馬村... 徳しまつ

國... 祭... 花... 又鼓吹幡

旗をとして歌舞たて奉るなり日本書記ありては神代卷國  
 同國の神代卷に海神みを奉るなりこれは神代卷の代に始り  
 奉るなり云伊弉冉尊を奉るなりこれは神代卷の代に始り  
 奉るなり出又知るなりこれは神代卷の代に始り  
 奉朝の樂代始り申す也庭火朝會其の樂曲の二十四曲を  
 庭火朝會其の樂曲の二十四曲を  
 本文 昔は神代の樂代ありて則ち神を奉るなり用いら  
 せり樂代ありて其の樂曲の二十四曲を國史に記す

所謂備馬樂風俗の類なり昔は武氣國風の樂あり  
 神樂の用代の頌の如く備馬樂風俗の用代の十五國  
 の風の如くあり  
 三十四代のみと推古天皇の二十二年百濟の  
 人味摩之我朝ありて彼昔吳國ありて其國の伎樂  
 舞を奉りて其の樂曲の二十四曲を國史に記す

是を異邦の樂の我國の付れれ其の始とや中なる支  
**6.** **利注** 此年隋煬帝大業八年の事なり其の代に  
新羅の樂獻す其の代に其の國の心  
を傳へしはそす

其の代に文武天皇の御代に初として撰き一命を以て  
雅樂寮の掌と爲す文武雅曲正傳 **備** 樂の何ぞ  
**6** **利注** 干戈の事なり **又** 干戈 **有也** 武と云ふ雅曲正傳の外  
に雅樂と云ふ中其解あり見し

其属のいしを其師の教又傳師傳生笛生笛工等の如き  
皆本朝の樂部を掌り唐樂高麗百濟新羅樂等伎樂

本

等し各其師の共生とあり **利注**  
伎樂とも其無のり也義解あり  
此等し皆異邦の樂部と掌り也此等し本朝の樂  
或は燕波管ものし或は唐中に用いらるる本朝の樂  
正の掌り事の内なるものなり **如** 如くは唐代  
の樂の事なり **非** 非か北 **北** 亦存陳隋等の樂及び唐代のいし也  
部胡部等の曲又これなり **非** 非か北 **北** 亦存陳隋等の樂及び唐代のいし也  
し侍るり **非** 非か北 **北** 亦存陳隋等の樂及び唐代のいし也  
ゆゑに胡部夷部等の樂 **非** 非か北 **北** 亦存陳隋等の樂及び唐代のいし也  
其の代に本朝の代の代 **三** 三節 **武** 武王牧野の事

697







れ 秦まで先王の禮樂をやめて廢れしと云ふは漢代の  
初尚先生の代を考ふるに遠くもつたに非ず礼樂の如  
き尚書に始り仲くさる所ある也 漢まで一なりび漢の  
中興よりして尚書礼樂の四書といふものも其物に傳  
ふる香の尚書と云ふ 樂改め代もふりて悉く其盡す  
6 割注 世のより續文獻通考より見ゆ

其の禮の書もして紳飲酒禮を用ひられ 尚書四書といふ  
十二篇尚書に傳へたる物なりしは是れと云ふは其の物  
中先儒の論よりくは宋の魯に及び先王の樂也即志ある  
居し代もたさしとせし先王の世もある事記 千五百年共

禮の儀はありしをいふてしるなり 初禮記始  
漢の代のはじめの先王の禮樂尚傳へたるものなりと云ふは  
初は是れ漢よりいふれんや其禮樂の如き三代より初る  
も何れもいふべし 其書に叔孫通の如き禮樂の一代の禮樂を  
割りしものなり こと其書に記す所の即ち其なり也 又  
孝文の篤恭子に孝廣りしもの 孝武の莫明也 儒を宗の如  
し 賈誼の方ある仲舒の賢なるも其君に代りて其代も有  
り 此即事に記す所なり 此も其の先王の禮樂尚書  
傳へたる代に傳へたる方賢の人の其君に代りて其代も有  
り 其書に記す所の 漢の初代に記す所の

行いませず前世の如き<sup>後</sup>先王の遺風<sup>御旨</sup>を<sup>おとせ</sup>得<sup>しめ</sup>  
るべき事<sup>也</sup>。此等<sup>也</sup>も<sup>也</sup>先王の遺風<sup>也</sup>。然る先王の遺風<sup>也</sup>  
香坊の如きに既<sup>も</sup>前を奉<sup>り</sup>た下<sup>に</sup>併<sup>し</sup>り<sup>て</sup>み<sup>は</sup>び<sup>て</sup>悉<sup>く</sup>み<sup>は</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>の</sup>  
とれど<sup>も</sup>於<sup>て</sup>西漢の日月<sup>は</sup>ひ<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>と<sup>も</sup>無<sup>し</sup>其<sup>の</sup>遺<sup>風</sup>を<sup>も</sup>た<sup>ず</sup>。有<sup>る</sup>と<sup>も</sup>吾<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>  
て<sup>は</sup>然<sup>れ</sup>し<sup>と</sup>又<sup>も</sup>一<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。蓋<sup>し</sup>の<sup>も</sup>と<sup>も</sup>也<sup>也</sup>。一<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。

謹對<sup>御旨</sup>第三條

一行<sup>御旨</sup>

古<sup>也</sup>一<sup>の</sup>三<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>時</sup>郊<sup>廟</sup>朝<sup>廷</sup>の<sup>用</sup>い<sup>た</sup>る<sup>の</sup>一<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。其<sup>の</sup>無<sup>る</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>三</sup>  
百<sup>の</sup>年<sup>の</sup>雅<sup>頌</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。即<sup>ち</sup>其<sup>の</sup>樂<sup>歌</sup>也<sup>也</sup>。二<sup>の</sup>南<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。即<sup>ち</sup>房<sup>中</sup>  
の<sup>樂</sup>歌<sup>と</sup>申<sup>す</sup>也<sup>也</sup>。其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。先<sup>王</sup>の<sup>禮</sup>樂<sup>を</sup>悉<sup>く</sup>み<sup>は</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>の</sup>  
事<sup>也</sup>。其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。漢<sup>の</sup>書<sup>に</sup>記<sup>す</sup>る<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。

其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。郊<sup>廟</sup>の<sup>用</sup>い<sup>た</sup>る<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。先<sup>王</sup>の<sup>禮</sup>樂<sup>を</sup>悉<sup>く</sup>み<sup>は</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>の</sup>  
事<sup>也</sup>。其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。漢<sup>の</sup>書<sup>に</sup>記<sup>す</sup>る<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。高<sup>祖</sup>楚<sup>の</sup>の<sup>声</sup>を<sup>用</sup>い<sup>た</sup>る<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。漢<sup>の</sup>書<sup>に</sup>記<sup>す</sup>る<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。

謹對<sup>御旨</sup>第四條

一行<sup>御旨</sup>

其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。郊<sup>廟</sup>朝<sup>廷</sup>の<sup>用</sup>い<sup>た</sup>る<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。先<sup>王</sup>の<sup>禮</sup>樂<sup>を</sup>悉<sup>く</sup>み<sup>は</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>の</sup>  
事<sup>也</sup>。其<sup>の</sup>代<sup>の</sup>の<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。漢<sup>の</sup>書<sup>に</sup>記<sup>す</sup>る<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。高<sup>祖</sup>楚<sup>の</sup>の<sup>声</sup>を<sup>用</sup>い<sup>た</sup>る<sup>の</sup>事<sup>也</sup>。漢<sup>の</sup>書<sup>に</sup>記<sup>す</sup>る<sup>事</sup>也<sup>也</sup>。

さきハ樂といひ樂といひぬ... 給  
大章帝の九詔爲の大夏湯の大漢武王の大武周の...  
つら製...  
即十六五の女一人...  
神官の屬小大司樂の...  
成均の法を掌り

成均ハ五帝の學の各一即黃帝の學の五帝の樂しこの官

一 丹管す

國の學校を... 國の子... 樂師... 官四人...  
先ハ國子のぬを掌り... 國子を教... 大胥... 大司師... 小師...  
并ハ樂二... 多々の... 官... 治... 司... 樂... 謀...

周の代... 樂官の長其任を... 軒... 説...  
其ハ... 虞舜の時... 伯夷礼を掌り... 夔樂を掌り...  
礼樂の官相... 教を掌り... 周... 樂官の... 礼官...  
小... 教を掌り... 如... 禮官の屬... 樂官を置... 樂官國子の教を掌り...  
有... 事... 禮... 事... 任... 輕... 事... 任... 事...

伊達貞光の日記に...

秦漢よりいふ奉常の屬官なり

6 奉常 即古の礼官なり 其の位は太常より上なり

大司馬の官あり 又少府の屬官なり 其府に丞あり 若くは太常の

卿時又協律都尉の官あり 其等皆常官なり 又少府の位は

或は國の或は奉の位の位なり 其の官制ありて太常

の属に居り 太常 一人 丞 一人 樂正 一人 其の位は

少を文武の二の舞 予一百四十人あり 其の宗同元の位あり

左右教坊を置て 俳優推制を掌するなり 其の俳優雜

割の 其の太常の官あり 其の位は 中官を以て 教坊使

と云ふ

注新

中官の官者にして 使は其官長や 其の官長は 教坊の太  
常也 其の元朝ありて 又教坊を置て 使并に 副使に  
言一人を置て 其の位は 中官の位なり

本朝の位は 其の雅楽寮の屬官なり 雅曲正儀 新樂の  
師と云ふなり 其の位は 本朝の制ハ 雅曲正儀の外 新樂の  
也 雅楽寮の 課 其の位は 中官の位なり

又 其の位は 本朝の制ハ 雅楽寮の 丞 都省の屬官なり 其の位は 中官の位なり  
其の位は 禮部と云 太常と云 即禮官也 其の位は 雅楽寮の 其の位は 太  
常と云 其の位は 中官の位なり 其の位は 中官の位なり 其の位は 中官の位なり  
其の位は 中官の位なり 其の位は 中官の位なり 其の位は 中官の位なり

中書省の職人五十四人

又樂工の伶官も伶人も又の伶侖なりと云ふ事流又の按部

削注 八居して多きしり終る所の階なり

又樂官の伶官と云事、古黄帝の樂師の伶侖と云この也

昔の樂師たるは、<sup>故</sup>世多し樂官を多して伶官と云こ

6 削注 是又一統りて、<sup>レ</sup>昔の樂師の姓を汝代樂友

のりともや

又俳優侏儒の類も伶官と云ことハ、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類

削 賈誼、<sup>是</sup>第一倡優下、<sup>等</sup>類也

又樂官の属なり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

6 削注 五代史、<sup>是</sup>伶官の、<sup>等</sup>類也

凡樂官の官有虞の代、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

中大夫なり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

削注 其の古樂官の属なり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

右の明王禮樂を以て世を治のり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

天子の治化を以て世を治のり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

其任最重、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

後王又先王の制、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

其の古樂官の属なり、<sup>是</sup>其の古樂官の属なり、<sup>等</sup>類也

中書省の出入し月人...

主の如きハ皆止し其後藝を以て其食を以て其居の正位に  
所の居て士君子賢能を以て奉拜ひらりてめく世の事  
つとて好之末まふしお給の石又此の位に  
等の官に事なむ事ハ藤氏外戚の権勢日くまら門族  
ののこまふ世とて武人として奴隷の如くめめいし時々の事  
母声響を好す世のの代もり好まるとり別表世の弊政  
て右の別をいひあはす

謹對 第五條

東遊と云ふといハ西儀の中りて凡俗の部の一也  
始ハ駿河國有夜郎有夜瀆小神女降て舞をば事なり

起きふむを申傳へ

別注

安閑帝の御時の事なり道子氏の人史曲を傳へたり

さもば又さか波河舞も一き能国法師が

余祇園臨時の祭祭の時奏らるる歌

神代のは夜の里とさかふらるる歌  
と云歌ハ天延二年祇園臨時の祭の時奏らるる東遊の歌  
昔くくくくくくくは舞曲ハ多ハ神を祭る事なり

686

其歌の如きに時<sup>臨</sup> 嘆みしきを<sup>作</sup> 一のらるるに首下  
情<sup>也</sup> 是れ江流のやうに 根源の書に見し一<sup>も</sup> 一<sup>も</sup> 一<sup>も</sup>  
せう 傳りし 諸説の<sup>ボヒキ</sup> 意 信意のよきとやいふま

三行下ゲ  
右謹對

樂對終

2058 (57)

此の歌は 樂對終 也 其歌の如きに時<sup>臨</sup> 嘆みしきを<sup>作</sup> 一のらるるに首下  
情<sup>也</sup> 是れ江流のやうに 根源の書に見し一<sup>も</sup> 一<sup>も</sup> 一<sup>も</sup>  
せう 傳りし 諸説の<sup>ボヒキ</sup> 意 信意のよきとやいふま

一歌

東戀きり 二歌 三歌 四歌 五歌 六歌 七歌 八歌 九歌 十歌 十一歌 十二歌 十三歌 十四歌 十五歌 十六歌 十七歌 十八歌 十九歌 二十歌 二十一歌 二十二歌 二十三歌 二十四歌 二十五歌 二十六歌 二十七歌 二十八歌 二十九歌 三十歌 三十一歌 三十二歌 三十三歌 三十四歌 三十五歌 三十六歌 三十七歌 三十八歌 三十九歌 四十歌 四十一歌 四十二歌 四十三歌 四十四歌 四十五歌 四十六歌 四十七歌 四十八歌 四十九歌 五十歌 五十一歌 五十二歌 五十三歌 五十四歌 五十五歌 五十六歌 五十七歌 五十八歌 五十九歌 六十歌 六十一歌 六十二歌 六十三歌 六十四歌 六十五歌 六十六歌 六十七歌 六十八歌 六十九歌 七十歌 七十一歌 七十二歌 七十三歌 七十四歌 七十五歌 七十六歌 七十七歌 七十八歌 七十九歌 八十歌 八十一歌 八十二歌 八十三歌 八十四歌 八十五歌 八十六歌 八十七歌 八十八歌 八十九歌 九十歌 九十一歌 九十二歌 九十三歌 九十四歌 九十五歌 九十六歌 九十七歌 九十八歌 九十九歌 一百歌



八幡宮詣り七月十日口禱仕ゆ夜を將曰痛去ぬ見兼打  
たむし友人よと忘ぬ教し川一捨ゆ由致自林取一法曰希去  
流るハ父上一所不俾去清上口禱仕忘ぬ教ゆ也是又自林  
疎り以忘教し以昔亦不俾ゆ者吾之方中以俾去希希生也  
依濃松城の者と斗喜来り傳つ親親等是之末中由

卯月

秋元祖馬守

女有り其父上兄上が承父を教せり女を此を教ふを院不  
して水中人の屍有り也見り不承父不似とり里長不告之  
玄屍を檢視夢りに承父有り官を此問しとる不父上兄  
上の教せり有り官此檢也去てし公不中、是け女父也若り  
此罪有べしや否や  
右邊に按る小人傳大變有り常理也以て受去るが次第此

304

正

第二十二古  
の聖人喪制  
を制したま  
ひし所より  
てれを女子た  
る者ハ父と夫  
とを視事しづれぬ  
親しくいづれぬ  
従ふべしと云ふ事  
を能く辨ゆべし  
縁せりて夫上愛ぬれども未だ夫の家より去る時  
ハ其親を更とし去未だ云々夫也天と其る不慮ハ其此  
時不ありて云々也見り子言父不不及事ゆら有り  
既小嫁しぬる後ハ其父死ぬれども未だ存衰不秋期也服也  
既父の家小嫁しぬれば其天と其る也夫小有り是  
也以て其父上以てとも只存衰也服して杖也去つり

25

其一同年よりして喪を陳く此時より何たりと云ふ父也  
凡そ云ふ文も及ざる事又明かりあり  
但し臨小塚にぬる女子は其父の爲に服喪する所の輕き事  
也後作の人殺むる處にべきが故に云他小此子也明かり  
りよして女子は在てハ父也天と云はれハ史也天也  
以父也天とせざるハ天の二有なきが故也且見くとりさ  
ハ人の妻とる者ハ其父也いつども是也見る事其父及  
バざるハ是聖人の義別ある事也知りぬべし其三ハハ  
人倫ハ人倫の常と妻と小附く是也臨喪べし君ととり  
長ととり父ととりあるととり夫ととりと婦ととりハ人倫  
の常とる之義とたふさる君とたふさる父とたふさる子とら  
は文也たふさる婦ととりさるハ人倫の妻とる君とたふさる

305

といふとも君とたりと云ふ云々父とたふさる君と一古  
子ととりと君と云ふ云々夫とたりと君と婦とたふさる云  
あるさハ人倫の妻ととりして其妻と夫と中べし凡  
人倫たる者其父也若し殺し人の妻とるもの其父也其也  
殺すも其ハ人倫の妻ととりして其妻の最大あるもの其ハ  
其君たる者其君も忠なり人且其時ハ其父も孝なり其  
是亦の妻と君とあり其婦たりん其の不孝もして其不幸  
の最大あるもの也中べし其ハ其の人の倫の道也其  
論也其也中べし其の人の倫たる者其君也其也其父と  
て其君も忠なり其婦も其人の倫なり  
唐の李麗石廣芬が別よ見たり  
人死すたり其父の爲に其父之亡不さるて其父の爲に

養育りし者又其人有き小阿ふは

漢の孝平皇后小阿の夫元皇后是太子妃我國にて木

二字

曾北漢水野者の妻の如き是亦の事也別し見たり

され其父の為小阿を教さ北て其父を云し者の子未だ

其例を思はず他し我父の言君の命を更に承父を殺んせ

し知知り我父小阿を父を教せし其父を不孝之とせし事

ハ見へしり

左傳小阿也是別不記して呈する亦小阿也

夫の亦承父小阿が不孝を人ハ凡人の婦た人者

ハ能令父ハ背事し其承父ハ背く所を理ゆりたり

且中へし海して也園公の服割り殺せし女ハ其夫也天也

して其父の為ハ天也二つせはと見へた北ハ能令其父の

我夫教せし事也然し初て其父也公小阿也

孫を父母也答るの律也以て受て應りて以てやけ女

の答も時其戸也正しく承父なりと云る也初て其父

長小を水よりおして見て後小承父也ハ能く小阿り

た北ハ其父と見と承父教せし也然し小阿しとハ大

小異りけ女罪也應きり可し其理を承父也此女其父の

正しく承父ありし也答る後承父也其父の教せし事

ある小承父と云ふ承父自教したらんハ承父の為小阿

く其父と見と承父の為小承父の如阿りて其子懐むべし

且中阿也

楚の石奢慶の季確父の為小死せし例也以て中書也

此二人の事も別し見へしり

400

従<sup>レ</sup>又此の如く小禰せんハ古の重人の戒め後<sup>レ</sup>一悔<sup>レ</sup>  
 ん事知人<sup>い</sup>事<sup>い</sup>責<sup>い</sup>る<sup>い</sup>有<sup>い</sup>り<sup>い</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>も<sup>い</sup>怒<sup>い</sup>阿<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>禰<sup>い</sup>な<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ば  
 天子の教<sup>い</sup>べ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>禰<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>阿<sup>い</sup>は<sup>い</sup>古<sup>い</sup>より<sup>い</sup>婦<sup>い</sup>人の<sup>い</sup>身<sup>い</sup>を<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>為<sup>い</sup>に<sup>い</sup>  
 夫<sup>い</sup>矣<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>亦<sup>い</sup>身<sup>い</sup>死<sup>い</sup>せる<sup>い</sup>小<sup>い</sup>速<sup>い</sup>津<sup>い</sup>志<sup>い</sup>を<sup>い</sup>身<sup>い</sup>終<sup>い</sup>る<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>る<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 世<sup>い</sup>に<sup>い</sup>亦<sup>い</sup>吏<sup>い</sup>の<sup>い</sup>為<sup>い</sup>に<sup>い</sup>小<sup>い</sup>言<sup>い</sup>を<sup>い</sup>言<sup>い</sup>也<sup>い</sup>与<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>者<sup>い</sup>其<sup>い</sup>教<sup>い</sup>阿<sup>い</sup>り<sup>い</sup>

漢の孝車皇后孝献皇后北齊の天元皇后其太子把<sup>其</sup>弟  
 國の親<sup>い</sup>の<sup>い</sup>大<sup>い</sup>非<sup>い</sup>君<sup>い</sup>の<sup>い</sup>教<sup>い</sup>是<sup>い</sup>去<sup>い</sup>り<sup>い</sup>是<sup>い</sup>未<sup>い</sup>の<sup>い</sup>り<sup>い</sup>別<sup>い</sup>す<sup>い</sup>見<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 古人<sup>い</sup>を<sup>い</sup>死<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>處<sup>い</sup>を<sup>い</sup>以<sup>い</sup>て<sup>い</sup>言<sup>い</sup>也<sup>い</sup>爲<sup>い</sup>り<sup>い</sup>也<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>世<sup>い</sup>に<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ば<sup>い</sup>け<sup>い</sup>女  
 の<sup>い</sup>死<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>也<sup>い</sup>以<sup>い</sup>て<sup>い</sup>言<sup>い</sup>也<sup>い</sup>爲<sup>い</sup>り<sup>い</sup>也<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>世<sup>い</sup>に<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ば<sup>い</sup>け<sup>い</sup>女  
 して<sup>い</sup>又<sup>い</sup>教<sup>い</sup>也<sup>い</sup>敷<sup>い</sup>也<sup>い</sup>見<sup>い</sup>也<sup>い</sup>と<sup>い</sup>り<sup>い</sup>凡<sup>い</sup>獄<sup>い</sup>也<sup>い</sup>交<sup>い</sup>也<sup>い</sup>交<sup>い</sup>る<sup>い</sup>も<sup>い</sup>必<sup>い</sup>を<sup>い</sup>傳<sup>い</sup>理<sup>い</sup>也<sup>い</sup>禰  
 也<sup>い</sup>べき<sup>い</sup>る<sup>い</sup>る<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>と<sup>い</sup>の<sup>い</sup>三<sup>い</sup>也<sup>い</sup>以<sup>い</sup>て<sup>い</sup>人<sup>い</sup>傳<sup>い</sup>の<sup>い</sup>三<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 也<sup>い</sup>る<sup>い</sup>時<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>何<sup>い</sup>也<sup>い</sup>り<sup>い</sup>言<sup>い</sup>也<sup>い</sup>何<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>也<sup>い</sup>り<sup>い</sup>言<sup>い</sup>也<sup>い</sup>加<sup>い</sup>也<sup>い</sup>以<sup>い</sup>て<sup>い</sup>撰<sup>い</sup>び<sup>い</sup>中<sup>い</sup>へ<sup>い</sup>き

さらバ女子の未<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>嫁<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>ざる<sup>い</sup>者<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>天<sup>い</sup>也<sup>い</sup>也<sup>い</sup>と<sup>い</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>不<sup>い</sup>嫁<sup>い</sup>  
 て<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>天<sup>い</sup>也<sup>い</sup>と<sup>い</sup>す<sup>い</sup>べ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>る<sup>い</sup>別<sup>い</sup>男<sup>い</sup>子<sup>い</sup>の<sup>い</sup>い<sup>い</sup>や<sup>い</sup>と<sup>い</sup>仕<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>ハ  
 言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>孝<sup>い</sup>有<sup>い</sup>る<sup>い</sup>法<sup>い</sup>も<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>仕<sup>い</sup>る<sup>い</sup>も<sup>い</sup>及<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>不<sup>い</sup>孝<sup>い</sup>有<sup>い</sup>る<sup>い</sup>べ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>  
 事<sup>い</sup>不<sup>い</sup>同<sup>い</sup>也<sup>い</sup>偶<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>不<sup>い</sup>人<sup>い</sup>の<sup>い</sup>臣<sup>い</sup>た<sup>い</sup>る<sup>い</sup>者<sup>い</sup>不<sup>い</sup>孝<sup>い</sup>不<sup>い</sup>して<sup>い</sup>或<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>  
 事<sup>い</sup>を<sup>い</sup>教<sup>い</sup>んと<sup>い</sup>して<sup>い</sup>或<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>事<sup>い</sup>を<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>中<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 何<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>不<sup>い</sup>孝<sup>い</sup>有<sup>い</sup>り<sup>い</sup>也<sup>い</sup>ハ<sup>い</sup>不<sup>い</sup>孝<sup>い</sup>有<sup>い</sup>り<sup>い</sup>也<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>  
 事<sup>い</sup>の<sup>い</sup>律<sup>い</sup>也<sup>い</sup>減<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>べ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>改<sup>い</sup>阿<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>る<sup>い</sup>此<sup>い</sup>女<sup>い</sup>也<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>言<sup>い</sup>  
 答<sup>い</sup>不<sup>い</sup>例<sup>い</sup>也<sup>い</sup>り<sup>い</sup>建<sup>い</sup>罪<sup>い</sup>も<sup>い</sup>受<sup>い</sup>る<sup>い</sup>後<sup>い</sup>も<sup>い</sup>べ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>若<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 若<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 若<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 若<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>  
 若<sup>い</sup>君<sup>い</sup>也<sup>い</sup>教<sup>い</sup>せん<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>父<sup>い</sup>の<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>答<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>也<sup>い</sup>

白石先生遺考坤文卷終 大尾



